

# ルポ 労組破壊

## 「関西生コン事件」とは何か(下)

### 検証シンポジウム 「関西生コン事件」を考える

主催 関西生コンを支援する会

# 「影の主役」 としてのメディア

たけのぶ・みえこ ジャーナリスト、和光大学名誉教授。著書に『ルポ 雇用劣化不況』（岩波新書）、『正社員消滅』（朝日新書）、『企業ファースト化する日本―虚妄の「働き方改革」を問う』（岩波書店）など

竹信三恵子

上—事件が多角的に検証された「検証シンポジウム「関西生コン事件」を考える」（2020年2月16日、大阪市）

下—日本労働法学会有志声明を発表する労働法学者たち記者会見が開かれた（2019年12月9日、厚生労働省記者クラブ）

世界 SEKAI 2020.4

関西生コン事件は、労働基本権で保障されている労働組合活動を刑事事件の言葉に読み替えることを通じ、八〇人を超す大量逮捕と、七〇人を超す大量起訴を生み出した。こうした異様な事件の展開に、メディアは「影の主役」と言えるほどの役割を果たした。ひとつが、関生支部について「暴力的集団」とのイメージを拡散し、事件を敬遠する空気を作り出したSNSのヘイト的報道。もうひとつは、警察発表報道以外はほぼ沈黙を続けた主流メディアだ。

### 「なぜメディアは関心がないのか」

二〇一九年一二月九日、厚生労働省の記者クラブに、毛塚勝利・元日本労働法学会代表理事、深谷信夫・茨城大学名誉教授、吉田美喜夫・立命館大学名誉教授、山田省三・中央大学名誉教授らが並んだ。

浅倉むつ子・早稲田大学名誉教授、道幸哲也・北海道大学名誉教授、西谷敏・大阪市立大学名誉教授、浜村彰・法政大学教授、脇田滋・龍谷大学名誉教授など、日本を代表する労働法研究者七八人が参加した「労働法学会有志」による関西生コン事件への抗議声明の発表会見だった。

会見室では「組合活動に対する信じがたい刑事弾圧を見越すことはできない」と題した声明文が配布された。深谷が「約二〇〇人の研究者が参加する労働法学会で七八人もがまとまって声明を出したのは異例。それがこの事件の重大さ、